

# “安心・安全”を 大原則として拘りを注ぎ込む 頼もしきフットワークマイスター

走りと魅力を際立たせるGTブランド

**tanabe**

足元の機能美を極めるホイールブランド

**SSR**



愛車の走りとスタイルを底上げするためのファーストメニューと言えば

やはり足回りやホイールといったフットワークチューニングだ。

車高調やスタビライザー、補強パーツなどで走りをブラッシュアップする「tanabe」

機能美ホイールで足元の存在感と走りの頼もしさを双方から高める「SSR」

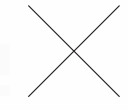
この2大ブランドでユーザーニーズを満たすタナベは

創業からコツコツと積み重ねてきた老舗ならではのノウハウに進化の糸口を受協なく探る探究心を重ね合わせて  
革新的なハイパフォーマンスアイテムを多数生み出してきたフットワークマイスター。

アフターパーツだからこそ欠かせない“安心・安全”に取り組み姿勢

そして『ルールは守る。常識は超える』とのコンセプトを注ぐ最新シリーズをここでクローズアップしていこう。

走りと魅力を際立たせるGTブランド



足元の機能美を極めるホイールブランド



“安心・安全”を  
大原則として拘りを注ぎ込む  
頼もしいフットワークマイスター



高め上げた性能へ安心・安全を添える  
攻めの開発姿勢と徹底した品質管理

最新設備と熟練職人で高める  
こだわりのタナベクオリティ  
タナベの手がけるスプリングや  
車高調、ホイールといったフットワ  
ークアイテムは、「万が一」が許され  
ない走りの重要パーツだ。そのた  
め、開発・設計は真摯に取り組み  
ていくのだが、仮にパーフェクトな  
開発・設計に仕上がったとしても  
品質がばらつくような生産体制で  
は狙った性能や安全性は確保でき  
ない。  
「モータースポーツ活動から得た  
ノウハウで高性能なものを生み出

### tanabe 高性能スプリングを生む 徹底した品質管理

疲労強度やヘタリの原因となる残留応力は、コイルング後に約400℃の低温を加えるブルーイングで取り除いていく。ここでも仕上がりを左右する時間と温度の徹底管理を図っていく。



通常は1回で済ませがちなショットピーニングでは、さらに表面応力を高めて疲労強度を向上させるべく、独自オーダーの大型マシンで大小2回のショットピーニングを実施。



冷間成形スプリングへ使用するのは、高周波誘導加熱処理を施した独自オーダーの線材。仕入れるたびに、自社計測機で設計基準を満たす硬度を確認する。



製品の溶接は、独自の溶接基準をクリアした職人だけが携われる。その上で、定期的に溶接試験が実施され、技術力を維持しているのだ。

塗装前に設定最大荷重以上の力を加えて完全密着させるセッティングを施し、初期のヘタリは事前に取り除く。最新設備の導入で慢心せず、各工程において設計通りの仕上がりのチェック、完成後の抜き取りチェックなど徹底した品質管理を図っているのだ。

タナベ マーケティング部

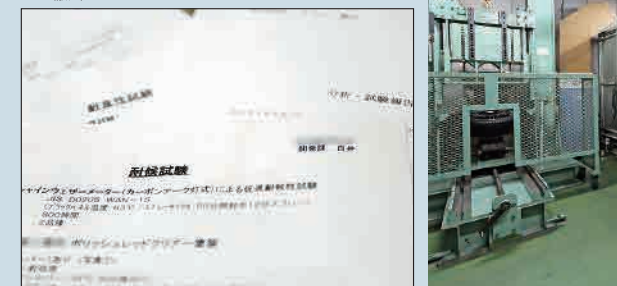
用品企画広報課 林 正美さん(左)  
企画広報課 土居正剛さん(右)



tanabe、SSRそれぞれのこだわりをナビゲートしてくれたタナベの林さんと土居さん。チューニングパーツには安定した高性能を安心して発揮させられる頼もしさが必要不可欠と考え、開発から生産まで妥協なく取り組んでいる。

構造的に振れの出やすい組み付けホイールだが、1mmまで許容されるJIS規格よりも厳格に定めた社内基準でチェックし、徹底した品質管理を行なっている。

足元の存在感を左右するカラーリングに関しても、耐食や耐候試験をクリアした塗料を使用。塗膜硬度や密着性も品質管理で徹底チェックする。



SSRのホイールは社内に用意した各種試験機により、JWLよりも遙かに厳しい基準値をクリアしたものだけが製品化される。高性能を安心して使えるようにとの思いから自らに課すシビアなテストだ。



3ピースホイールでは溶接後にシーリングも追加される。溶接のみでもエア漏れは生じないが、手間を惜しまず“安心・安全”を添えた万全の1本へと導いていく。

### SSR 製造へのこだわりと 厳格な検査体制

膨張させたリムヘドディスクをはめ込む2ピースでは歪みが生じないように配慮して送風冷却。熟練職人と最新設備のコンビネーションで仕上げていくのだ。



「軽さを突き詰めるスポーツホイールでは、JWLやJAWAがクリアできても、独自基準を満たさずにNGとなることだってあります。基準を満たすだけならマージンを確保した設計にすればOKですが、それでは常識を超えられない。手間やコストはかかりますが、シミュレーションだけではわからないダメな部分を把握して突き詰めていく攻めの姿勢で開発・設計しています(企画広報課・土居さん)

「たとえば冷間成形のスプリングに使用している線材は、高周波誘導加熱処理を施した独自オーダーのものになります。材料を仕入れるたびに計測機で基準を満たした硬度を確認していますね。また前後方向と左右方向へそれぞれ100万回もの加振試験を実施して溶接や強度を最適化したダンパーブラケットにしても、溶接部の精度の確認のため定期的に溶接試験を実施。tanabe、SSRともにハード、ソフトの双方から完成品だけでなく生産工程まで徹底管理し、優れた性能に高品質、高耐久性を備えた製品供給の安定化を図っています(用品企画広報課・林さん)

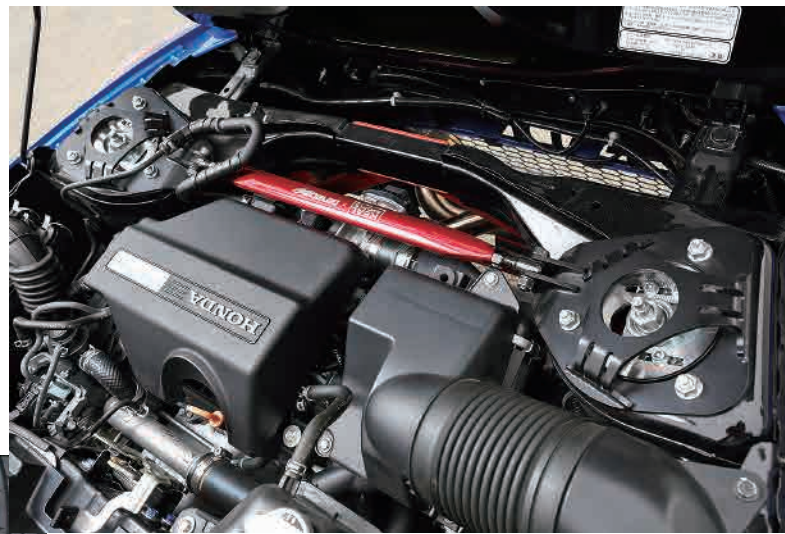
「このように「ルール」は守る。常識は超える」を掲げ「安心・安全」を添えた物作りへと妥協なく取り組むタナベ。走りの楽しさを引き上げる数々の逸品は、攻めの開発姿勢と徹底した品質管理から生み出されていることを覚えておきたい。

# モータースポーツ由来の知識と経験を活かした開発へ タナベの誇る技術と品質が融合する

スーパーGTで戦うNSX-GTをイメージし、触媒風のテールエンドとバンパーメッシュを採用したS660用エキゾーストシステム。7psアップを実現するJQR認証のSTスベック、8psアップで2.36kgの超軽量仕上げとした競技専用のRスベックを用意する。



純正からテール位置を変更したことで目立ってしまうリヤメンバーには、レーザー刻印を施したステンレスのメンバープレートを用意。走りの楽しさを引き出すだけでなく、スタイリングにもしっかり配慮してアプローチした。



前後ともシャフト部分はタナベのラインナップするアイテムと同様だが、ベースプレートには剛性向上を図る3D形状を採用したS660用タワーバー。

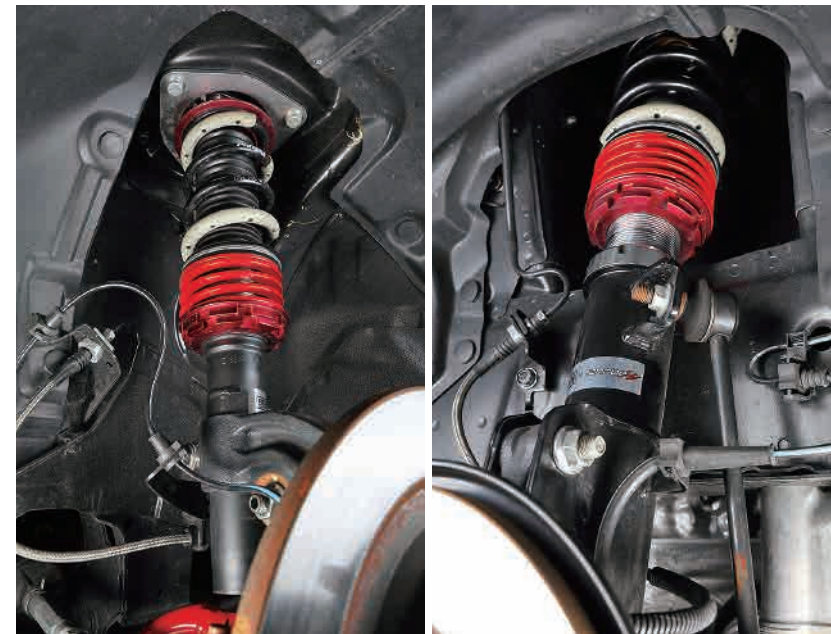


オープンボディのS660でフットワークをしっかりと動かすには、やはりボディ補強が不可欠。ストリートでの快適性を妨げないフロア下で補強効果を最大限に引き出せるポイントや結び方をリアルスポーツが提案し、tanabeがアンダーカバー装着や最低地上高に配慮した設計で製品を生み出した。



オーナーズカップに参戦している車両からデータを集め、サスペンションシステムのRスベックを開発したN-ONE。ナンバー付き車両でのレースであるNゼ口規定の性格も踏まえ、ハンドリング向上やキャンバー一確保だけでなくサーキット移動時の乗り心地にもこだわった。

SSRの「GT-X01」もリアルスポーツ×SSRとして、コラボ専用カラーのダークガンメタとセンターロック風デザインのセンターキャップでスタンバイ。S660ではフロント6Jx15+45、リヤ6.5Jx16+42のチューナーサイズとしたRスベック、フロント5Jx15+45、リヤ6.5Jx16+48のSTスベックをラインナップする。



純正ダンパーを徹底的に調べ、油量、ストローク量などを考慮して、フロントはネジ式、リヤは全長調整式としたサスペンションシステム。STスベック、Rスベックともに凸形状でストロークアップしたキャンバー調整式ピロアッパーを採用する。もちろん、スプリングはタナベの誇るPRO210、ダンパーはKYBの40段減衰調整式TVSだ。

## リアルスポーツ

開発・メカニック 西崎友章さん(左)

営業・メカニック 河内憲之さん(右)

「S660はミッドシップで軽快な走りを楽しむ1台ですが、ハンドリングにさらなるリニアさを引き出すべく、足回りやボディ剛性の最適化を図りました。開発時はストリートチューンとしてのコストにも配慮しつつ、スーパーGTのノウハウを注ぎ、タナベの技術力と品質管理でS660が楽しくなるアイテムへと上げています」(河内さん)



カバリーするSTスベック、サーキットでのタイムを重視したRスベックの2タイプが用意されている。コンペティションシーンで速さを引き出すための知識と経験を培ってきたレーシングチームと、高性能に安心・安全を添える物作り技術力を誇る老舗フットワークチューナーのドリームコラボ、リアルスポーツ×タナベ。愛車で走りを楽しめるなら、このコラボプロジェクトは決して見逃せない！

リアルスポーツ×タナベで手がけるのはS660、N-ONEだが、リアルスポーツ×デイトナ×サムライジーンズがコラボしたN-VANもタナベが機能系パーツをバックアップした。フィットが有力候補という今後の車種展開からも目が離せない。



実力派レーシングチームと  
老舗フットワークチューナーが夢の競演!

**REAL  
SPORTS**

**TANABE**

“安心・安全”を  
大原則として拘りを注ぎ込む  
頼もしいフットワークマイスター



クルマがもっと楽しくなる  
注目のコラボプロジェクト

スーパーGTやスーパーフォーミュラといったトップカテゴリーを戦い、広く名を馳せるリアルレーシング。タナベはスプリングやホイールを供給してリアルレーシングとパートナー関係にあるのだが、実はチーム代表を務める金石勝智氏とタナベはチーム設立以前からモータースポーツで深くつきあいを重ねてきた旧知の仲なのだ。

「以前からなにか一緒にできればいいねと話合っていて、2018年に立ち上げるようになったのがリアルレーシングの用品部門であるリアルスポーツとタナベのコラボプロジェクトです。お互いが誇るノウハウを重ね合わせて、クルマ好きが愛車をもっと楽しめる製品を作り上げようと始動しました」(タナベ企画広報課・土居さん)

その記念すべきファーストモデルは、ミッドシップの本格オープンスポーツとして人気を集めるS660だ。クルマ好きのオーナーが



モータースポーツで長年パートナー関係にあり、互いに信頼を寄せているリアルスポーツとタナベ。双方の得意とする部分を融合し、クルマ好きのオーナーが「リアル」に走りの良さを楽しめる1台を目指している。

現在のラインナップはホンダ車を中心とするS660、シビックハッチバック、N-ONEの3モデルで車格に応じたアイテムを展開。また、ユーザーニーズを深く満たすためS660とN-ONEの車高調は街乗りからワインディングまで

「リアル」に走りの良さを楽しめる一歩へと導くべく、まずは車高調やスタビライザー、タワーバーにマフラーといったアイテムをプロデュース。ボディ剛性を高めてフットワークを高めるべく、間髪入れずにクロスブレースやパフォーマンスパネルなど各部補強を追加している。「普段はレーシングカーを手がけていますし、ベイス車両の分析から走りの向上へとつながるポイントを探るのは得意とするところ。そうした我々の考えたチューニングポイントも、タナベさんがストリートで安心して使えるように品質や性能だけでなく価格までも配慮してブラッシュアップしてくれました」とは、スーパーGTでレーシングメカニックも務めるリアルスポーツの河内さん。

ちなみに、リリースするのはユーザー向けアイテムだが、開発テストではレーシングカーと変わらぬ万全の体制が用意された。リアルスポーツからはレーシングメカニックやエンジンニア、タナベからは開発スタッフとKYBのエンジンニアが参加し、パーツを付けては走り、外しては走るを繰り返す。そして、テストドライブにはなんとGT500を戦う塚越選手や小暮選手を起用。「クルマ好きが愛車をもっと楽しむことを引き出す」というコンセプトに則って、レーシングドライバーが本気でセットアップを煮詰めていったのだ。

「リアル」に走りの良さを楽しめる一歩へと導くべく、まずは車高調やスタビライザー、タワーバーにマフラーといったアイテムをプロデュース。ボディ剛性を高めてフットワークを高めるべく、間髪入れずにクロスブレースやパフォーマンスパネルなど各部補強を追加している。「普段はレーシングカーを手がけていますし、ベイス車両の分析から走りの向上へとつながるポイントを探るのは得意とするところ。そうした我々の考えたチューニングポイントも、タナベさんがストリートで安心して使えるように品質や性能だけでなく価格までも配慮してブラッシュアップしてくれました」とは、スーパーGTでレーシングメカニックも務めるリアルスポーツの河内さん。

足回り&ホイールのコンビで  
人馬一体を楽しむ!



“安心・安全”を  
大原則として拘りを注ぎ込む  
頼もしいフットワークマイスター

## GT FUNTORIDE DAMPER

ジーティー ファントライド ダンパー

価格：15万8000円~18万8000円



適合車種：RC F、カローラスポーツ、86、フェアレディZ、BRZ、WRX S4、スイフトスポーツ、コペン、CH-R GRスポーツ  
※GRスープラ、ノートニスモ、ロードスターほか順次開発予定

路面へと吸い付くような減衰力特性に仕上げることで、コーナリング時の安定感や頼もしいトラクション性能を引き出すGT FUNTORIDE ダンパー。TVS搭載、40段階減衰力調整のKYB製ダンパーと冷間成形で軽量化に仕上げたPRO210の鉄壁コンビネーションで人馬一体感を引き出していく。

## GTX01

ジーティー エックスゼロワン

サイズ：15インチ~19インチ

価格：2万7000円~5万3000円



走行ステージや好みに応じた足もとへ仕上げられるように、多彩なアイテムを展開するスポーツホイールシリーズがSSRのGTだ。GT FUNTORIDEの位置付け的にはスポーツをカジュアルに楽しむことがテーマのGTV系にリンクするが、軽さと剛性へこだわったGTX系を与えれば走りの魅力も一層高まっていくだろう。このGTX01はスーパーGT500用ホイールデザインを市販用にアレンジ。インナーリムには肉薄化を可能とするFFT-R製法を採用し、軽量化と高剛性化を突き詰めたモデルだ。



## GT FUNTORIDE SPRING

ジーティー ファントライド スプリング

価格：2万6000円~4万1000円



適合車種：GRスープラ、86、カローラスポーツ、フェアレディZ (Z34)、シビックタイプR (FK8)、S660、ロードスター (ND5)、アルトワークス (HA36S)、スイフトスポーツ (ZC32/33S)、BRZ、WRX S4、コペン (LA400K/L880K)、ほか多数ラインアップ

タナベが誇る冷間成形で引っ張り強度2100N/mmを確保し、走りを楽しむための車高やストローク、レート設定に仕上げたGT FUNTORIDE スプリング。耐ヘタリや防錆といった基本性能の高さに、走りの魅力を高める“スポーツ”の味付けを重ねてきた。

スポーツを共通ワードにして  
ハンドリングと安定感を引き出す

足回りや補強パーツをデリバリーするtanabe。ニーズに応じた機能美あふれるホイールをデリバリーするSSR。それぞれのブランド展開を図ってきたタナベが2020年、新たに始動させた注目プロジェクトが「リアルモータースポーツスベック」を掲げて用途やニーズに対するスポーツホイールを用意するSSRの「GT」シリーズに、tanabeもコンセプトをリンクさせた新たなフットワークアイテ

ムの展開だ。

これまででは走りを重視したスポーツモデルであっても、開発時には様々なユーザーを満たすためのセツトアップが要求されていた。しかし、SSRのGTと同様に「スポーツ」を共通ワードとしたリンクを図ることで、より満足度の高いフットワークが提案できると判断。そこで「GR」「NISMO」といった専用チューニングが施された車種やスポーツカーに対し、よりハンドリングのリニアさで人馬一体感が心地よく楽しめるように「GT FUNTORIDE」を生み出した。

気になるラインアップは、車高やストローク、レート設定でスポーツカーにふさわしいハンドリングとコーナリング特性を引き出す「GT FUNTORIDEスプリング」と、「妥協なきしなやかさ」をセッティングテーマにハンドリングのリニアさと乗り心地の双方を突き詰めた「GT FUNTORIDEダンパー」の2モデル。

いずれもサーキットや速さへ特化するのではなく、「FUNTORIDE」つまり走りを楽しむための味付けが施されたスポーティアイテムだ。快適性などを捨てて限界領域へ攻めこむのではなく、愛車のハンドリングを快適に際立たせていく欲張り仕立て。肩肘張らずに走りの魅力を味わうなら、SSRのGTと併せてtanabeのGT FUNTORIDEをコンビネーションさせていこう。

tanabeとSSRの両ブランドでスポーツを共通ワードとしたリンク開始!